

千葉県JICA協力隊育てる会
【設立十年を超えて】

平成22年6月13日に当会は設立して、会長として第五代目の会長に就任したことになります。この間多彩な会長が務められて、今に至っています。只今の課題はコロナ禍で昨年まで支援活動ができないでいました。しかし、ウクライナ侵攻などで戦火にある、子供や母親などへの医療支援を国境なき医師団に寄付することで多少なりとも会として実践したとみころです。また、これからの会長としての課題は1、会員の増強、2、支援活動の多様化、3、帰国後の隊員との交流、4、千葉県内の在留外国人との交流、そしてもっとも重要な点は会の理事・役員の高齢化対策などです。千葉県の在留外国人は大凡16万人で、アジア系はそのうち半数を占めています。南米、北米、ヨーロッパなどです。千葉県内の地域別に観ると、多古市のベトナム・タイの交流が有りますので、こうした交流仲間と一緒に活動する内容も検討し、交流の場を拡大して行きたいと思えます。また、地域医療と在日外国人に対する医療支援活動を千葉県、千葉県医師会等とも連携できればと考えています。地域の企業の方々には、海外青年帰国隊員が帰国して、再就職活動の場を提供して頂く、取り組みも新たに設けて活動したいと思えます。海外の国との交流も海外青年帰国隊員の関係国との繋がりを太くして、定例的に交流するWebサイトを活用する等が考えられます。今年は新年早々に能登半島地震が発生し多の方々が亡くなられ、心より冥福をお祈り申し上げます。また、家屋被害と災害に遭い、多数の人が避難生活を余儀なくされてます。一日も早い復興を願うばかりです。令和5年度は千葉県JICA協力隊を育てる会として3回の千葉県庁表敬訪問・壮行会が行われ、令和6年1月17日に第三次隊として7名が表敬訪問、壮行会後それぞれの国に赴きました。目標の業務を成し遂げることと無事の帰国を念じています。

千葉県JICA協力隊を育てる会
会長 高尾精一